

令和 7 年度事業報告書

公の施設名称	岡崎市花園高齢者生きがいセンター
施設の設置目的、 役割	市内北部地域を中心とした高齢者に、就業機会を提供し働くことにより社会参加を促進し、以て高齢者福祉の向上と健康維持と生きがいづくりに貢献する。
施設の所在地	岡崎市 恵田町 字 東三山 108 番地 11
施設規模	敷地面積：3,359 m ² 建物面積：621 m ²
指定管理者	名 称： 公益社団法人岡崎市シルバー人材センター 所在地： 岡崎市 美合町 字 五本松 68 番地 12 代表者： 会 長 加 藤 保 彦
指定期間	令和 3 年 4 月 1 日 から 令和 8 年 3 月 31 日まで

1 事業の実施状況

(1) 実施状況

事業実績

	受注件数 (件)	就業人員 (人)		契約金額 (円)			
		実人員	延日人員	配分金	事務費	材料費等	計
公共	0	101	0	0	0	0	0
民間事業所	26		11,030	59,153,389	718,7500	1,391,150	67,732,039
一般家庭	21		110	1,013,665	137,855	167,870	1,319,390
計	47		11,140	60,167,054	7,325,355	1,559,020	69,051,429

(1) 事業実施に対する自己評価

契約額としては、近年の最高水準であった令和 6 年度実績と比較した場合、約 7 % 減となっているが、これは当年度をもって花園指定管理事業が終了することに伴い撤収準備を行う必要があるため、年度末近辺で契約額の減少が生じたためである。

その中でも、花園高齢者生きがいセンターを通して様々な発注を頂いていた企業の

活動を妨げることをないように、代替ルートを構築するために事前協議を行うなど入念な引継を行いながらも極端に実績が落ちないように可能な範囲で受注を行い、対前年度比10%を超えるような大きな下落を起こすことなく事業を終了できた。

2 施設の利用状況

(1) 利用状況

会員登録状況

	令和7年度末登録会員数（人）				就業人員 （人）
	64歳以下	65～69歳	70歳以上	計	
男	0	2	39	41	63
女	0	0	20	20	38
計	0	2	59	61	101

(2) 利用状況に対する自己評価

就業率については、指定管理業務終了に伴い同施設での活動を主とする所属会員の4割が退会しているため、従来通りの就業率算出基準（就業人員/年度末会員数）の場合は100%を大きく超える数値となる。実体的な数字として年度末の登録会員の就業率を見た場合は100%となる。

年齢構成については、当施設の終了を前提としていたため令和7年度の所属会員の新規登録はないため、年齢構成の変更は退会者によるもののみとなる。

3 収支状況

(1) 収支状況

	項目	内 訳	決算額（円）
収 入	委託料収入	指定管理委託料	15,775,653
	利用料金収入	配分金	60,167,054
	事業収入	事務費収入等	7,325,355
	その他収入	材料費等	1,590,520
収入 計			84,858,582
支 出	直接管理運営費	直接人件費、光熱水費、事務費、手数料、修繕費、清掃等委託料、保険料等、建築物等定期点検費	19,495,610
	（うち修繕費）	※精算項目	69,300
	事業費	直接事業に係る経費	60,167,054
	その他	本部経費、租税公課、当期剰余金等	5,195,918
支出 計			84,858,582
差 引			0

(2) 収支状況に対する自己評価

事業実績は、指定管理業務終了に伴い年度末の稼働を縮小する必要があったため、過去最高水準の令和6年度に比べ約8%減となっている。

支出については、こちらも指定管理業務終了に伴う稼働縮小により年度末にかけて全体的に費用も減少している。特に精算項目である修繕費については市担当課と協議の上、極力修繕を行わない方針となったため、費用を大きく抑える結果となった。

4 アンケート結果

(1) 実施概要

実施期間	回答者数	アンケート実施方法
令和 8 年 3 月	67	会員配布

(2) アンケート結果概要

利用者満足度は、前年度と比較してやや不満、不満の割合が5%から16%に増加している。

(3) アンケート結果に対する自己評価

満足度の低下については、今年度をもって当該指定管理業務が終了することに伴い、慣れ親しんだ施設や就業が無くなること等への不満が現れたものであり、やむを得ないものとして受け止めている。

5 その他自己評価

(1) 利用者へのサービスに対する自己評価

指定管理業務終了について就業会員に早期から情報発信を行い、また市担当課と合同で説明会を実施することで、就業会員へご理解頂けるよう丁寧な説明に努めた。

(2) 利用者のニーズ把握に対する自己評価

年度の前半では、過去最高水準であった令和6年度と同等程度の就業を提供し、会員のニーズに応えることが出来た。

年度の後半からは、指定管理業務の終了に伴い発注者企業の活動に悪影響が出ないよう、引継ぎなどのために年度内で順次作業を終了していったため前年度に比較して下落しているが、それでも問題のない範囲で作業の維持に努め、年度後半においても前年度の9割程度の就業をキープすることが出来た。

(3) 苦情対応等に対する自己評価

一般家庭からの苦情は無し。

作業所内作業が今年度をもって終了となることに鑑み、終了予定の早期からの連絡調整や、同様の作業が可能な他市のシルバー人材センターの紹介などを行い、長期に渡り仕事を頂いていた発注者に迷惑が掛からないよう、円滑な引継ぎに努めた。